



緑の列島 木の家スクール名古屋 2017

主催：「緑の列島 木の家スクール 名古屋」実行委員会

共催：NPO 法人 緑の列島ネットワーク、名古屋工業大学 木の文化研究フォーラム

後援：伝統木造技術文化遺産準備会、職人がつくる木の家ネット、公益社団法人日本左官会議

「木の家スクール名古屋」は「木の家」のつくり方と暮らし、森と木の文化について学ぶ連続講座です。2003 年にはじまり、15 年目となりました。

難しさを増す住宅業界において、我が国の軸となる建築とはどのようなものなのか、歴史、森の文化、耐震性などの観点から考え、これからについてをマーケティングや環境まちづくりの視点から展望したいと思います。

木の家スクール名古屋 15 周年を記念し、博物館明治村館長の中川武先生をお迎えして、特別講義を行います。

■講座：第 1 回～第 5 回

■受講対象：「近くの山の木を使った家づくり」や「緑あふれる居住環境」に関心のある生活者・技術者

■受講料：15,000 円（資料代含む）

受講料は初回受講時に受付にてお支払ください。

■15 周年記念特別講義

受講生：無料 一般の方：1,000 円

■申込方法：

木の家スクールのホームページからお申し込みください。

申込み：緑の列島 木の家スクール名古屋 WEB
<http://kinoieschool.wix.com/nagoya>

■募集：

4 月 1 日から受付開始（お早めに申し込み下さい）

■定員 50 名（申込先着順）

■会場：名古屋工業大学（第 4 回以外）

- ・名古屋工業大学は、JR 中央線・地下鉄 鶴舞駅 下車 徒歩約 8 分。
- ・会場の詳細は申込者に別途連絡します。
- ・第 4 回のフィールドワークの集合時間、場所等は別途連絡します。
- ・講座修了時に、修了証をお渡しします。
- ・講義終了時刻は多少前後することがあります。
- ・欠席の場合は、資料のみ後日送付させていただきます。
- ・CPD 単位申請予定。

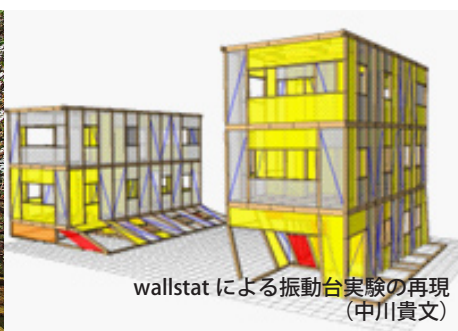
運営事務局：〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学内 木の家スクール名古屋 事務局

藤岡 E-mail: fujioka@nitech.ac.jp



エアコンなしでエアコンより快適な「緑風の家」
（埼玉・熊谷市）（甲斐徹郎）



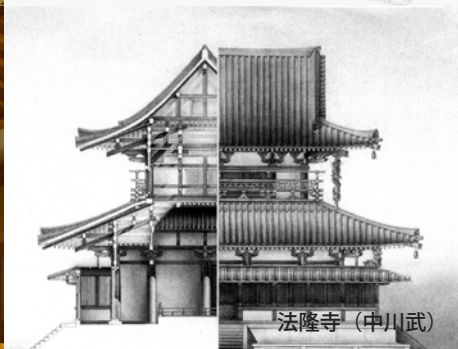
wallstat による振動台実験の再現
（中川貴文）



ドイツ・フリッツラーの街並み（太田邦夫）



大森寺照明計画（早川亜紀）



法隆寺（中川武）



涼ヶ岡八幡神社本殿妻飾り（福島県相馬市）（窪寺茂）

第1回 5月20日(土) 13:30-17:00



横内敏人 京都造形芸術大学大学院教授 建築家
「和」の創造的伝統に根ざした家づくり

日本の木造建築の素晴らしさを、どのように現代の住宅に継承していくかが私の住宅設計における最大のテーマです。今まで手がけた住宅を紹介しながら、設計の考え方や手法、その背景にある思想や文化についてお話をしたいと思います。



早川 亜紀 灯デザイン主宰 ライティングデザイナー
建築・環境照明のデザイン

照明デザイナーの仕事は、光の効果で建築・環境をデザインすること。与えられた空間や条件、要求内容を深く理解し、どんな光のストーリーを加えて実現するか。いくつかのプロジェクトで照明デザインを解説するとともに、LEDによる光の新たな可能性などお話しできればと思います。

profile 建築家、京都造形芸術大学大学院教授。1954年山梨県生まれ。1978年東京藝術大学美術学部建築学科卒業。1980年マサチューセッツ工科大学大学院修了。1983～87年前川國男建築設計事務所を経て1991年～横内敏人建築設計事務所代表。著書に『WA-HOUSE 横内敏人の住宅』ほか

profile 1976年生まれ、日本女子大学家政学部住居学科修了。2001年～株式会社ライティングプランナーズアソシエーツに入社。京都迎賓館、茅野市民館、シンガポール新国立図書館などを担当。2006年～有限会社サウダライティングデザイン＆アナリシス、2013年～灯デザイン主宰。国際照明デザイナー協会(IALD)アソシエイト会員、照明学会正会員。IALD 照明賞、IES 照明賞など受賞。

第2回 7月1日(土) 13:30-17:00



甲斐徹郎 関東学院大学客員教授、株式会社チームネット 代表取締役
パッシブデザインと都市環境の再生

パッシブデザインを活かし快適な室内環境の創造を目指す場合、立地する地域の環境ポテンシャルを読み込み、更には建物外部の微気候環境の意図的な調整が求められる。この講座ではこうしたパッシブデザインの手法を基にし、荒廃しつつある都市環境を再生を促す住まいづくりのあり方を考察する。



佐藤善秀 ロスコ・らしさ研究所 代表
住宅の新しい価値づくり競争が始まった

2020年というエポックメイキングな年に、住宅業界の競争ポイントは大きくシフトしていくでしょう。今盛んに言われる「住宅の性能」は、法律の施行によって当たり前となり、差別化のポイントは、「新しい価値づくり競争」に移ります。それを私は「らしさづくり」競争と呼んでいます。他にないあなただけの価値をどのようにつくり、伝えるか、先行する企業の例を見ながら一緒に考えてみたいと思います。

profile 1959年東京生まれ。千葉大学文学部行動科学科社会学専攻卒業。環境共生型の住まいと街を創造し普及させるコンサルティング会社としてチームネットを設立。緑を活かしたプロジェクトのプロデュースや緑のまちづくりを数多く実践する。著書に「不動産の価値はコミュニティで決まる」(学芸出版社)、「住環境再考」(明文社/共著)他多数

profile 1949年三重県生まれ。同志社大学文学部心理学専攻卒業。日本マーケティング研究所を経て、1994年(株)ロスコ・アールディ研究所設立。2005年NPO環境共棲住宅「地球の会」理事に就任。2013年より「ロスコ・らしさ研究所」代表。大手メーカーのマーケティングリサーチを中心に、経営戦略・商品企画、販促企画、教育研修などに携わる。地産産業の活性化にも協力している。著書に「住宅業界の地域密着「らしさ」経営戦略」(鶴書院)、「住宅マーケティングの教科書」(新建新聞社)など。

第3回 7月29日(土) 13:30-17:00



中川貴文 国土技術政策総合研究所 主任研究官
木造住宅の耐震性能の見える化ー熊本地震における検証を踏まえてー

2016年熊本地震では、木造住宅の耐震性能が再び注目されるようになりました。熊本地震における調査・分析により明らかになった現行耐震基準による木造住宅の実力について解説します。また、地震応答解析ソフトウェア「wallstat」を用いた耐震シミュレーションによる巨大地震に有効な耐震強化策等について紹介を行います。

profile 1975年奈良県川上村生まれ。wallstatの開発者。2003年東京大学大学院にて「木造住宅の倒壊過程シミュレーション」で学位論文。民間企業を経て2005年より(独)建築研究所。2013年より現職。「木造住宅の耐震性能評価法の開発」「地震・津波・突風による木造住宅の被害調査」などに取り組む。2011年日本木材学会奨励賞。2015年大幹幹員。

15周年記念特別講義 9月16日(土) 15:00-17:00



中川 武 博物館明治村館長 早稲田大学名誉教授 建築史家
日本のすまいは美しかったか

私たちのすまいの環境は高度に発展し、整然としている。にもかかわらず、私たちの現在には欠落感がつきまとう。このことの困難性は、すまいの空間とすまいの工夫が、どこに届くのか判然としないうところに核心的問題がありそうだ。では、どうすれば良いのか。過去の美しい局面の一コマに癒されるならば、それは一つの可能性の萌芽であり、その理由を、それが成立した根拠を含めて、しっかり復元的に追いつめるならば、そのプロセスで、逆立つ波の花のなかに現実へと往還する道が見えるかもしれない。法隆寺と堅穴住居の間の落差が、やがて二条城と幕末期の上流民家との間の微差にまで到達した歴史を念頭に置きつつ、遠景と近景や、内外関係等の、すまいの空間の質に関してドライブしてみよう。何かが見えるはずだ。

profile 1944年富山県生まれ。建築史家、早稲田大学名誉教授、博物館明治村館長。1992年よりベトナム・フエの歴史的建造物群の調査研究・保存修復、1994年よりユネスコ信託基金によるカンボジア・アンコール遺跡の保存修復事業を指揮。平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰など受賞多数。主な著書に『日本の家』(2015年)など。

第4回 9月30日(土) 13:30-17:00

【フィールドワーク】愛知県新城市 現地集合

※集合場所・時刻については、別途連絡いたします。
名古屋工業大学発着の大型バス(有料)を利用することができます。

峰野成彦 株式会社 杉生 取締役社長

「森林の恵みを直接お届け」の取り組みー愛知の林業の現状ー

三河には太さ、長さの揃ったクセの少ない80年生のスギが豊富にあり、まさに使い時です。天然乾燥にこだわり、三河杉の特徴を活かした木製品の企画・開発・販売を手がけています。伐採現場の見学、天然乾燥材の現場見学、加工場・乾燥倉庫などを見学いただき、「杉生」の取り組みを解説します。また、愛知の林業の実態と課題、可能性などについてもお話しさせていただきます。



profile 杉生(すぎしよ)は、1998年ふるさと奥三河の森林を保護・育成し、健康な奥三河づくりを提案しようと、地元の製材業者を中心に設計士とともに組織された「森援舎 杉生グループ」が前身。1999年「森林からの恵みを、直接お届けします」をテーマに法人化。三河杉の普及とブランド化に取り組む。2007年新城市山吉田から、新城市矢部に本社・工場を移転。

第5回 11月4日(土) 13:30-17:00



太田邦夫 太田邦夫建築設計室主宰 東洋大学・ものづくり大学名誉教授
ヨーロッパの木造建築とその伝統的な構法の特徴

木造には柱や梁を組んで建てるものと校木(あぜき)を重ねて築くものの二つがありますが、ヨーロッパには後者のほうも多いのです。それなのになぜ3階以上の木造軸組壁の街並みも多く残っているのか。その謎を解きながら、日本建築の将来も考えてみましょう。

profile 1935年東京都生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。建築家。工学博士。主として木造建築の設計に従事、あわせて世界各地の伝統的な木造構法や建築文化等の比較研究を行う。著書に『木のヨーロッパ建築とまち歩き』、『木造の詳細一構造編、仕上編(共著)』『東ヨーロッパの木造建築一架構方式の比較研究』『エスノ・アーキテクチュア』など。



窪寺 茂 窪寺茂 建築装飾技術史研究所 所長
錯覚の日本建築伝統論ー「素木建築」の実体を探るー

昨今日本に関する伝統論がかまびすしい。しかし、今日言われている伝統の多くは、明治時代以降に形成されたものである。日本建築に関する伝統論も同様で、錯覚あるいは無知による伝統論が幅を利かせてはいないだろうか。本講義では「素木建築」に見られる問題点を採り上げて、日本建築の本来の様相の一端を探ってみたい。

profile 1951年東京生まれ。大学卒業後、文化財建造物保存技術協会に入会して文化財建造物の保存修理実務に携わった後、奈良文化財研究所建造物室長、京都大学客員准教授、東京大学非常勤講師、国立台湾芸術大学客員教授などを歴任。東アジア地域を視野に入れた、日本建築意匠史、建築装飾技術史研究を中心に据えた国内外の調査研究を行っている。